2019年11月16日

WS・ORC　2019年　年次総会　報告

JSAF国際委員会　オフショア担当

小林　昇

2019年の年次総会は、WS（ワールドセーリング）が10月26日から11月3日、ORC（オフショアレーシングコングレス）は25日から30日まで共にバミューダで開催された。私は２7日午後の到着から11月１日昼の出発まで滞在し、WSの外洋関係委員会の出席・傍聴と、ORCのジェネラルミーティングに出席した。

26日　朝、関西空港を出発。仁川、アトランタ経由で27日午後バミューダに到着。

27日 WS及びORCに出席登録。9:30から終日スペシャルレギュレーションサブコミッティーを傍聴。夜は、ORCディナーに出席。

28日　昼食時にeセーリング世界選手権を見物。夜はロレックスセーラーズアワードに出席。

30日　ORCのコングレスとしてEGM（午前）とAGM（午後）に出席。

31日　終日＜オセアニックアンドオフショアコミッティー＞に委員として出席

1日　昼前に大阪に向けて出発。３日朝に関西空港に帰着。

＜スペシャルレギュレーションサブコミッティー＞　28日　–傍聴

カナダのウイルアボット委員長のリーダーシップで円滑に会議は進んだ。サブミッション毎の決定は後日のO&O委員会に上げられ、サブミッションは全て承認されて、その決定が最終となった。

専門性を持つこの委員会はいくつかのワーキングパーティーを持ち、それぞれからの報告があった。

* サブミッションの決定内容は別紙報告。

＜オセアニック・オフショアコミッティー＞　　 31日　—委員として参加

オフショア事項を全般的に統括する委員会で、スペシャルレギュレーションサブコミッティーを持つ。

討議された主要な内容は以下の通り。

ワーキングパーティーの報告

＜ユニバーサルメジャメントシステム＞

ＵＭＳ(Universal Measurement System)への取り組みはORCとRORC・ＵＳセーリングの３者が、統一のメジャメント申告フォームを作る目的で進められている。ERSをベースに計測点の定義付け、計測方法の統一、各々のデーターの移し替え方法を確立して、統一した申告フォームを作り各レーティングオフィスで証書の発行を可能とし、ユーザーの利便性を達成するのが目標。

セール計測の部分までは昨年度に完了し、艇体計測部に移っているがこちらの進展はあまり進んでいないがORCとIRCのジョイント世界選手権に向けても重要なテーマである。

＜航海灯＞

最近の艇の航海灯設備の調査と、国際法規との整合性についてレポートが提出された。報告書はIRPCAS(海上衝突予防法)との整合性を取るよう統括団体のIMOに提出される。

＜トラフィックセパレーションシステム＞

RSS48.2について、サブミッション166-19-New Appendix TSについて上の航海灯と併せて話し合われた。

内容は柴沼委員のRR委員会報告参照、テストルールとして採用される。

レーティングシステムからの報告

＜IRCからの状況報告＞

RORCからIRCの状況報告があった。証書発行数の推移は2019年8月末では4,497隻で前年同期からは67隻減少と、2014年に6,013隻の最大値以来の減少傾向は続いている。（最盛期の2012年は8,744隻／通年）。発行国も49から44に変化している。国別での動きは前年同時期比でブラジルとオーストラリアで増加している。日本は前年同時期比較でマイナス1の264隻となっている。

＜ORRからの報告＞

ORR(Offshore Racing Rule) は米国で使用されているVPPベースのレーティングシステムで、計測を行うORRとデーター申告制のORR ezがある（別にORR mhというマルチハル用もある）。２０１９年も安定した証書発行を行っている。米国ではPHRFというエンピリカル（経験則に基づく）簡易レーティングが広く採用されているが、より科学性のあるレーティングを求める層にORRが提供され主要なレースに採用されている。

昨年度にこのルールのスポンサーを無くし、現在資金面の問題が発生しているとの話が上がっていたが、問題なく継続して運用されているようだ。

* ORCの状況はORCコングレスの項で記載。

オリンピックにおける外洋レースの実施

2024年のパリ大会での正式種目として、男女ミックスのWハンドによる３０フィート前後の艇を２０隻使用して600マイルの外洋レースの実施が昨年に決定された。これに使用する艇は2023年の末に決定する事となっているが、イベント／イクイップメント／オセアニックオフショア委員会合同でのワーキングパーティーにて艇の選定を進める事になっている。これは、直前に決定する事で乗員の技量を競う競技とする事から来ている。現時点で想定される建造社としては、ベネトウ／ジャノー／J-ボート／デヘラーの名前が上がっていた。

外洋ヨット世界選手権の開催

WSのAlastair Fox氏から説明があった。

WSはこのオリンピックでの外洋艇レース種目と同様のフォーマットで２０１９年9月に世界選手権を開催する事を発表したが、これは１年延期されて2020年10月にマルタ島で開催されるロレックスノースシーレースの一部門として開催される事になった。使用艇のL-30は2021年まで世界選手権での使用が契約されているが、その後は未定である。またL-30は、今回WSインターナショナルクラスの申請が出されたが、必要要件不足で否認された。この大会はJSAF外洋グループとして前向きに参加を決めており、情報収拾に務めてきたが、WSのCEOハント氏の突然の退任があってか、より詳細な内容進展は発表されず、予選レースも各コンチネントの予選大会の基準が示されているが、アジア地区での開催は困難であろう。WSの主催で2020年の５から６月に地中海で予選レース開催予定という話があるが、各地区での割り当て数を含めて、新しい情報は得られなかった。JSAFとしては、WSとの連絡を密に取りながら、先行して参加者の募集や選考方法などの告知を進めていく必要がある。

セーラークラシフィケーションコード

WSのURL上で申告できるレース参加者のプロ／アマを認定する制度で多くのレースで採用されている。クラシフィケーションの用語使用に混乱があるため、カテゴライゼーションコードと名称が変更される。また申告ページは現在６ヶ国語対応であるが、これに日本語を加える対応が進行中で、これは東京オリンピックを考えての事、との事。日本にとっては利便性が高まる。

＜ＯＲＣコングレス＞　10月30日 –コングレスとして参加

WSと並行してORCの各委員会も開催される。30日午前はコングレスだけが参加するEGMが、午後にオープンのAGM（年次ゼネラルミーティング）が開催された。日本からは植松前副会長と私がコングレスに指名されており2020年まで任期がある。

ORCは本年で創設５０周年を迎え、IORに始まり世界のレーティングとしてリードし続けている。現在、世界44カ国で利用され、35カ国にレーティングオフィスがある。

ORCの2019年９月末の証書発行数（ORC iとclubの合計数）は9,500(8,450隻)となり、前年度末の10,196(8,626隻)は超える見通しとなっている。ORC iの主要な国は依然としてイタリアとスペインで、ORC cではオランダ、ノルウエイが相変わらず強い。又、ORC iが増加傾向にある。日本での証書発行は、本年８月末では50隻となっている。

2020年からは、マルチハル対象のORC Mhの運用を開始、ダブルハンド証書もスタートする。こちらはORCルールを変更して同一艇がフルクルーとWハンドの証書を同時に持てるようになる。

以　上